

# 岐阜公園に聖母マリア像の由来は？

「岐阜公園の中に聖母マリア像があるのはご存じですか。なぜ公園内に、キリスト教を連想させる像があるのでしょうか」。5月中旬、女性読者から1通のメールが寄せられた。取材も含めて20回以上同公園を訪れているが、そんな像があるとは知らなかった。公園の奥まった位置に足を運ぶと、笑みをたたえた女性像がたたずんでいた。果たしてマリア像なのか。建立された経緯に迫った。(藤矢大輝)

## へそに込めた 母の恩

い笑みを投げかけている。台座には「母は尊し」。確かに、幼きイエスを抱きかかえるマリアのようにも見える。とはいえ、公園内にはほかにキリスト教に関係する建物などはない。

岐阜公園がある岐阜市大宮町の歴史を記した「大宮町一丁目史誌」(二〇〇〇年発行、岐阜文芸社)をひもとくと、像の名が分かった。名称は「母の塔」。一九五七(昭和三十三年)に建立され、同年十月二十五日に除幕式が開かれた。

同クラブは、笑いで世を元気にしよう、と、元岐阜市長の松尾国松氏(一八七四〜一九五八年)を筆頭に、市の関係者などで構成され五七年春に発足したそうだ。地元の金華自治会連合会副会長の林憲和さん(六三)も、その存在を知っていた。

林さんは「ユーモアクラブは地元の名士で構成され、いろいろユーモラスな活動をしていたと聞いている。だが、残念ながらいつしか活動は途絶えてしまった」と話す。

中部日本新聞(現中日新聞)の五七年十月二十六日付朝刊は、同じ日に開かれた新長良橋の完成式とともに、「母の塔」の除幕式を次のように報じていた。

「最初は母の愛にちなんでへその緒をまつる神社を計画したが、公園法にふれるので母の塔の中にへその緒をおさめられる特別仕かけの塔に

読者の皆さまからテーマを募集しています。〒5008875 岐阜市柳ヶ瀬通1の12、中日新聞岐阜支社報道部。ファクス058(262)8706、Eメールsifu@chunichi.co.jp 住所と氏名、年齢、連絡先も記載してください。

し、そしてへその緒の処分に困っている方はどうぞご利用下さいと呼びかけている」

記事を読み、改めて「母の塔」を訪れてみた。台座の後ろに設けられたへその緒を入れる部を見ると、へその緒を入れたいと思われ二つの収納口が設けられていた。一体なぜ二つ？ 林さんは「岐阜は『日本へのそ』に当たる場所。それとかけて二つ(二本)の入り口を設けたと小さいころに聞きました。ユーモアクラブらしいなと思います。由来は知らなくても金華校区の人には親しみのある像です」と教えてくれた。

除幕式の記事には、当時本郷小一年の磯野守男君が花輪を贈呈したとある。建立したクラブメンバーの一人、故磯野宮之進氏の長男で、岐阜市



金華山を望む麓に広がる岐阜公園。金華山ロープウェイ乗り場近くの加藤栄三・東一記念美術館の北側には、樹木に囲まれた空間が広がる。石段を上っていくと、台座も含めて高さ三層ほどの女性の像が立っていた。

一枚の布をまとった像は左手に乳児を抱え、傍らに立つ幼児の頭をなでながら柔らか



①岐阜公園内にひっそりとたたずむ母の塔  
②台座の後ろに設けられたへその緒を入れるためと思われる収納部分  
=いずれも岐阜市大宮町で

